

本校の概要

1 地域の概要

大豊町は高知県最北端、四国山地の中央にあり、北緯 33 度 56 分、東経 133 度 37 分に位置し、北は愛媛県、東は徳島県に接し中央山脈をもって嶺南と界する山岳地帯で、中央を貫流する吉野川及びその支流、その他溪谷に沿って古くから発展してきた。

集落は標高 200m～700mの傾斜地に散在し、国道、県道、JR 駅付近に住宅街を形成している。町の中央部を吉野川、穴内川に沿って国道 3 2 号線、JR 土讃線が縦断し、駅は町内に 7カ所を有する。また、高知自動車道も町内を縦断し、川口には大豊インターチェンジがある。

大豊町は昭和 30 年、旧東豊永村、西豊永村、大杉村、天坪村の 4 村合併により大豊村として発足した。（昭和 31 年旧天坪村の南部 5 地域が分村により土佐山田町に編入）昭和 47 年 4 月 1 日町制を施行した。

面積 314, 94 平方 k m, 人口 4,885 人世帯数 2,594 戸（2011 年 4 月現在）である。このうち 15 歳未満の年少者が占める割合は 5,55% (271 人)、65 歳以上の老年者が 53,18% (2,598 人) になっており急速に人口減少と高齢化が進んでいる。町内には小学校 3 校、2 0 0 9（平成 2 1）年 4 月に大豊中学校と大杉中学校が統合され、大豊町中学校が開校し、中学校 1 校となった。

2 学校の概要

本校区は町の東部を占め、8 地区より通学している。児童数 13 名（2011.4.1 現在）児童家庭数は、10 戸である。学校の玄関位置は北緯 33 度 47 分、東経 133 度 45 分、標高 229m にある。

明治 10 年以降川井、西峰、柚木、寺谷小などが設置され、栗生、怒田、川井が統合し東豊永小学校の前身となり西峰、柚木が西峰小学校の前身となる。

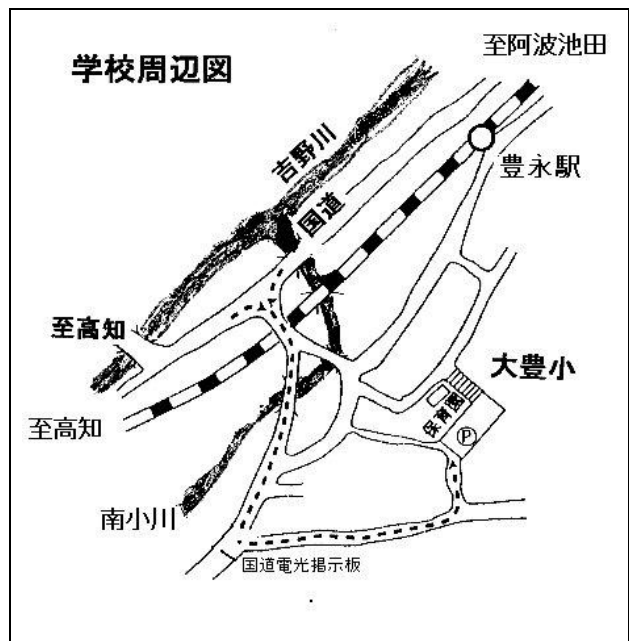
昭和 43 年 4 月岩原小・大砂子小・西豊永小・同佐賀山分校の統合により豊永小学校となった。平成 12 年西峰小学校が東豊永小学校に統合され、平成 16 年には東豊永小学校と豊永小学校が合併し大豊小学校として本校が発足し 8 年目を迎えている。

3 児童の実態

児童は、土讃線及び吉野川の東西及び国道 439 号南小川の支流に沿った山間地より通学している。通学にハイヤー・自家用車を利用している児童が 7 名。徒歩で通学する児童が 6 名である。こうした通学方法の児童に対し常に配慮が必要になっている。豪雨、積雪時は特に安全面に留意するようにしている。

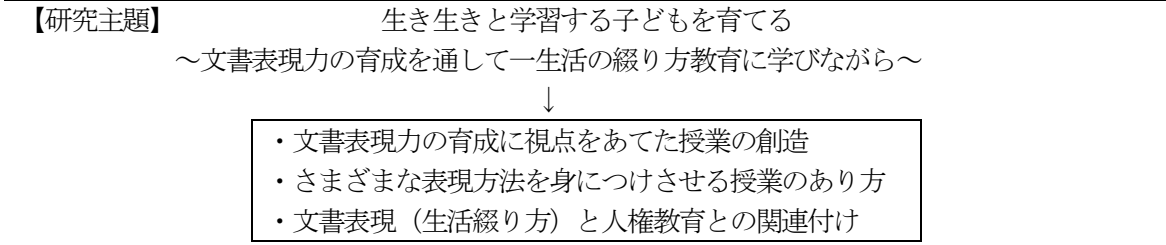
また、ほとんどの児童が、放課後子ども教室に通っており、午後 6 時まで学校で過ごしながら、校庭で遊んだりしている実態が見られ、教室で補習や加力学習したりする時間は少ない。

児童は、元気に明るく、全体に素直、優しく争いごとを好まない。また、自主性に乏しく、依頼心が強い傾向が見られる。



【学校教育目標】	力を発揮できる大豊の子どもを育てる
【めざす子ども像】	明るい子 元気な子 努力する子
【めざす教師像】	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性豊かで、想像力のある教師 ・専門性を高め、実践的指導力のある教師 ・子どもや保護者や地域から信頼される教師

【学校経営ビジョン】
<ol style="list-style-type: none"> 1 完全複式学級の学級経営の研究と指導方法の工夫・改善に努め、児童の基礎・基本の定着を図り、学力・体力の向上を目指す。 2 「生きる力」を育むことを目指し、「自ら学び、自ら考える力の育成」「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「子どもの個性を生かす」ことなどを重視し、日々の教育実践に努める。 3 教職専門職としての理論的、実践的研究を深めると共に、教職員としての使命と責任を自覚し、協力と連帯を大切にしながら、教育を推進する。 4 学校と家庭や地域などの連携を密にして、教職員と保護者がお互いに信頼し合う、人間関係の中で協力を推進する。(保護者や地域の人々などとよりよい関係をつくり、信頼される学校) 5 明るく、元気に満ち、環境整備がなされている学校



【本年度の重点目標】		
教科の充実と改善	人権教育の推進	特別活動の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・指導目標を明確にし、子どもが生き生きと活動できる授業を創造する。 ・基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。 ・学び方を体験させ、自ら学ぶ意欲を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通して、人間尊重の教育を進める。 ・人権教育学習の計画的、系統的な指導に努め、差別をしない、させない許さない子どもを育てる。 ・教師の人権教育観を確立するとともに地域社会との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立・共同の喜びと充実感の味わえる集団生活を創造する。 ・集団の一員として自覚を深め協力する態度、責任感、連帯感を育てる。 ・学級、学校の充実と向上を図る。
道徳教育の充実	生活指導の充実	健康安全の徹底
<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に基づき、計画的、発展的な指導を図る。 ・道徳的実践力を高める指導を充実する ・家庭や地域社会との共通理解・連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた節度のある生活ができる子どもを育てる。 ・児童相互の好ましい人間関係と児童と教師との信頼関係を確立する。 ・保・小・中一環教育での連携を強化し充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に関する意識を高め自他の生命を尊重する態度を育てる。 ・学校環境の安全点検を励行し、児童の事故防止に努め、児童の危険回避能力を高める。 ・子ども・教職員が危機意識を高めるよう努力する